

年頭にあたり

「果満菩提圓 華開世界起」
 「行学一如」「信誠敬愛」

総長 池田 魯參
 学長 廣瀬 良弘



第25回出雲全日本大学選抜駅伝競走

第45回全日本大学駅伝対校選手権大会

第90回東京箱根間往復大学駅伝競走



未来に繋がる自分へ繋げる



● 年頭にあたり	2
● 在職中の思い出	4・5
● 就職活動体験記	7
● 国際交流協定校 キーンズランド大学 来日プログラム25周年	11
● サークル活動報告	14・15
● 駅伝 陸上競技部 出雲駅伝・全日本大学駅伝優勝、箱根駅伝総合2位	16



年頭にあたり

果満菩提圓 華開世界起

総長 池田 魯參



新年おめでとうございます。

年頭に、学生諸君、教職員諸兄姉に幸多かれと、心から祝祷申し上げます。

掲句は、「果満ち菩提^{まどか}圓に、華開き世界起る」と読みます。ハンニヤタラが弟子のダルマに法を伝えたとき、この言葉を授けたといひます。思い残すところなく生涯かけて学仏道を存分に行ずることができた、そこに清新な花が咲き世界は一変するといほどの意味です。

この句を受けたダルマは師命によってインドから中国に渡来し、正伝の仏法を二祖慧可に伝え、「一華五葉を開き、結果自然に成る」という言葉を遺します。禅仏教はしっかり大地に根を下ろし、伝え伝えて五代後に六祖慧能が登場し、禅宗教団は飛躍的に展開することになろう、と予言するのです。

師と弟子の心が共鳴し、一時代を力強く牽引したようすが伺われます。参。

駒澤人の皆さま方は、こういう祖師たちの行実から何を学ばれるでしょうか。私はこんなことを考えます。1つは、日日悔いが残らぬよう克己精励に努め、己の成すべきことを精一杯勤めなければいけない。2つは、光輝ある禅仏教の伝統文化をできるだけ多くの人に理解していただけるよう発信に努めなければいけない。3つは、末永く後の世に禅仏教が伝承され存続するためには、志のある後継者を養成することが急務である、ということです。

本年は本学も開校132年目を迎え、駒沢の地に移って101年目となります。先人が築き上げた功業を顧み、及ばずながら私も心して自らの職責を全うしたいと誓うものです。

「行学一如」「信誠敬愛」

学長 廣瀬 良弘



新年おめでとうございます。穏やかな正月をお迎えのことでしょう。年頭にあたり、建学の理念について、考えてみます。本学は禅・仏教の精神に基づいた教育を目指しますが、長きにわたり、「行学一如」という言葉で言い表してきました。戦後だけでも60年です。

その言葉は、永平寺開山の道元禅師の最も代表的な言葉の「修証一等」（「修証一如」とも）に由来します。つまり、悟り（証）というものが、修行の遙か彼方にあるのではなく、坐禅修行（修）を行っているときに具現する。「悟り」は日常の「行」そのものにある。修（行）と証（悟り）は一体である。

その大学バージョンが「行学一如」です。「学」も大事ですが学んだことを実践に移す。あるいは、「学」をアクティブな行動により自分のものにする、という意味です。

到達点というものは素晴らしいものに相違ありませんが、アクティブに学んでいる「今」こそが、大切なのです。

本学の校歌には「信誠敬愛」という言葉が詠み込まれ、実践徳目とされてきました。これは忽滑谷快天学長が大正14年（1925）に大学令による大学となった折に、宗立大学から一般大学への脱皮をめざして、作成したものです（関口雅夫「駒澤法学」13）。相互信頼の「信」、誠心誠意の「誠」、相互に尊敬しあうの「敬」、道元禅師の大切な言葉「愛語」の「愛」です。本部棟正面左側のプランタにパンジーが咲いています。花の小さなのをピオラといいます。花言葉は思想・思索・純愛・誠実・信頼です。校歌のような花です。春まで咲くそうです。

一松語

大学では試験の季節を迎えるが、「抜き打ち試験のパラドックス」と呼ばれる哲学の練習問題がある。◆月曜から金曜までの集中講義がありそのシラバスには「授業期間中に抜き打ち試験を実施する」と書いてあるとする。だが、もし木曜までに試験がなければ金曜に実施されることが学生にはわかってしまうので金曜に抜き打ち試験を行うことはできない。さらに、その前提のもとでは水曜までに試験がなければ木

曜の試験実施を予想できてしまうため木曜に抜き打ち試験を行うこともできなくなる。同様の理屈を他の曜日にも適用していくと結局どの曜日にも抜き打ち試験は実施できなくなる。◆だが、話はここでは終わらない。こうして抜き打ち試験ができないという結論にたどり着いた途端に、今度は教師がどの曜日に試験を行っても学生にとっては予期せぬ試験となり、最初の結論とは裏腹に抜き打ち試験はシラバス通りめでたく実施できることとなる。この話が「パラドックス」と呼

ばれるゆえんである。◆詳しい説明は授業の場やその種の解説本に譲るが、この問題のひとつのポイントは「もし○曜までに試験がなければその次の△曜に実施されるはずだ」と現時点で語ることの、つまり、現時点から仮定を重ねて未来を語ることの適否にある。◆1月は一年の始まりであると同時にそろそろ年度末を意識する時期でもある。事実が確定してから「あの時ああしておけばよかった」と悔やむ回数を今年は何とかなしてできるだけ減らせるように努めたい。

開校130周年・駒沢移転100年 記念事業報告

募金事務室

駒澤大学開校130周年記念棟建設基金へのご協力のお礼および中間報告

皆さまには平素より駒澤大学の募金事業にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

駒澤大学開校130周年記念棟建設基金への募金は、同窓生をはじめ本学にご縁がある方、宗門関係者等々の皆さま、そして教職員から広くご賛同を得て多くの寄付金が寄せられています。ご協力いただいた皆さまには深く感謝申し上げます、ここに中間報告をいたします。

中間報告 (平成25年11月末日現在)	寄付件数	合計金額(利息は含まず)
	1,411件	130,771,948円

※詳細は、ホームページをご覧ください。

駒沢キャンパスでは本部棟の耐震工事が終了し、平成27年度から開校130周年記念棟の建設着工、平成30年4月からの使用を予定し、着々と計画を進めております。

駒澤大学開校130周年記念棟は、大小の講義室、とりわけ少人数教育に即した小規模教室の拡充、最新のAV機器を装備したPC教室の整備、開放的で明るい学生食堂及び利便性の高い売店等が入る機能的な建物構想となっております。

竣工後には、学生にとって一層快適で魅力的な教育施設となることが期待されます。

この寄付募集は、平成27年3月まで行っております。ご不明な点、ご質問等は募金事務室までお問い合わせください。

募金事務室：TEL. 03-3418-9561 FAX. 03-3418-9037 E-mail bokin@komazawa-u.ac.jp

禅文化歴史博物館主催

駒沢移転100周年記念 バスツアー開催

平成25年10月30日(水)、教職員・学生を対象に、「江戸三学寮」をたずねるバスツアーが禅文化歴史博物館主催により行われました。江戸三学寮とは、本学のルーツとなる曹洞宗僧侶の学問所があった泉岳寺学寮・青松寺獅子窟・吉祥寺旃檀林を指します。

講師には本学の100周年史、120周年史の編纂に携わられた廣瀬良弘学長を迎え、移動中のバスの中や拝観先でご説明をいただきました。

参加者は50人。快晴の中、バスは9時30分に大学を出発し、最初に泉岳寺(港区高輪)を拝観。曹洞宗宗務庁がある東京グランドホテルで昼食をとり、午後は青松寺(港区愛宕)をたずね、吉祥寺跡地(水道橋駅付近)を經由し、吉祥寺(文京区本駒込)を巡り、17時に吉祥寺で解散しました。いずれの寺院でも丁寧なご接待を受け、参加者からも好評の意見が多数寄せられました。三学寮の遺風と伝統を受け継ぐ各寺院の姿を見ることで、本学のあゆみに思いを馳せる充実した一日となりました。

(禅文化歴史博物館
塚田 博)

写真上/参加者一同 青松寺にて
写真下/吉祥寺山門「旃檀林」扁額前にて

学生企画

モザイクアート・ 写真展開催

世田谷区駒沢に駒澤大学の前身・曹洞宗大学がキャンパスを移転してから100年なることを記念し、「オータムフェスティバル2013」(11月2・3日開催)にて「駒沢移転100周年記念事業学生企画」を実施しました。「モザイクアート」と「写真展」から成る本企画には、2日間の開催中に卒業生や在学生など多くの方々にお越しいただきました。

「写真展」は、禅文化歴史博物館や学内団体の協力のもと、100年前の移転当時の講堂外観やその後の校舎の変遷、授業風景を捉えた写真を収集し、年代順に展示しました。大学祭のテーマ「伝統と飛躍」になぞらえ、過去と現在を写真で、飛躍する未来を絵画で表現しました。

「モザイクアート」は、在学生から寄せられた18,000枚もの小さな写真で構成される、縦2.3m・横3.5mの巨大な絵画で、そのデザインは、左右に並べた旧講堂と現本部棟との間に駅伝の襷がかかるというものです。「襷にかけられる100年の想い」をキャッチフレーズに、7月まで食堂1階の壁面で展示しています。

(オータムフェスティバル2013実行委員会
文学部地理学科2年 山西 一樹)



在職中の思い出

50年の駒澤大学の生活

仏教学部教授 石井 修道



18歳で福岡より上京し、入学して以来、2年間の京都大学での在外研究を除くと、正に50年を駒澤大学で過ごした。当初、246号線には路面電車が走り、オリンピックのための道路拡張が進んでいたことを思い出す。研究課題は一貫して禅宗史を選び、今年度も、4月16日の台湾の仏光

大学の「石頭系の禅について」の研究発表や10月27日の湖北省随州の大洪山慈恩寺の開眼法要の参列は、私の研究と深く関わっている。帰国の際に自誓の「學道無窮」の関防印を作った。この学究生活に支援をいただいた多くの方々により感謝をささげたい。

退任にあたって

仏教学部教授 吉津 宜英



昭和46年、同級生の石井修道先生とともに仏教学部助手に採用されて以来、今日に至りました。東京オリンピックが開かれたのは、禅学科3年の時でしたから、半世紀以上を本学で過ごしたことになります。まさに私の人生は「駒澤」と共にあったと言っても過言ではありません。その間、多

くの師友、学生諸氏に恵まれ、充実した研究・教育生活を送ることができたことに感謝あるのみです。最後の半年になって体調を崩してしまったことは面目ないことでしたが、母校駒澤大学の末永いご隆盛をお祈りして退任の挨拶といたします。

*吉津先生は、1月5日に逝去されました。

親しみが湧き、そして疎遠となって

文学部教授 佐藤 千春



40年に及ぶこのキャンパス、ここにはお子様を中心に、幸せそうなお家族の写真を毎年送ってくれる卒業生、お子様を亡くし、やがてご夫婦が離れ離れになった卒業生の姿がある。大勢の卒業生の喜び、悲しみが一杯詰まったこのキャンパスを、私は3月で離れる。巡る想いをかみしめ歩いている

と、いや増しに親しみが湧き、行き交う学生、教職員の皆さんに、その思いはいっそう募ってくる。しかし、もう4月、ここにはいない、戻ることもない。我に返ると、否応なく人生の一区切りを感じ、疎遠になっていく自分を覚える。駒澤の発展を心から願う。掛け替えのない大学での生活だった。

中国での考古学発掘

文学部教授 飯島 武次



駒澤大学に職を得て34年間の過ぎた。わたしの専門は、中国考古学である。考古学は発掘を旨とする学問である。私は、考古学の醍醐味は発掘にあると思っている。1986～1987年に在外研究の機会を与えられ、北京大学考古系で訪問学者として1年を過ごした。以来毎年、北京大学

考古文博学院の発掘に参加し、2001年からは駒澤大学学生の授業としての発掘実習も中国で行ってきた。今日、日中間の外交関係は、きわめて厳しい状況にあるなか、私はこの2014年3月で退職するが、今後も引き続いて毎年、中国で駒澤大学の発掘実習が行われることを希望している。

思い出と学生諸君への希望

法学部教授 松村 格



本学での40年間の貴重な思い出は、何よりも、第1期生のゼミ生OB・OGから現役生に至るまで、毎年コンパと夏合宿に参加してくれて、縦横の関係を問わずに語り合えたことです。また、ミュンヘン大学への3度の留学経験を学生諸君に紹介し得たことも有意義な思い出です。学生諸

君も、機会があれば是非外国生活を経験し、外から日本の良し悪しを見てほしいです。そして、一刻一刻を大事にして学生生活を送ってください。4年間の貴重な時間は二度と戻ってきません。夢と希望を忘れずに、地球（宇宙）的視座で考える力を養い貫いてください。

大学の知名度

医療健康科学部教授 小川 雅生



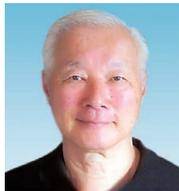
他人から「仕事は何ですか」と訊かれ、「駒澤大学の教員です」と答えると、直ぐに「駒澤大学は仏教の大学ですね」との返事。駒澤大学の世間における知名度が非常に高いことに驚きます。続く質問は「何を教えているのか」であり、「放射線物理を教えている」と言うと、怪訝な顔をされ

る。そこで、医療健康科学部ではハイテク医療を支える診療放射線技師を養成していることを説明するが、納得してもらえたかどうかは怪しい。

最後に、在職の7年間、同僚や事務の方々の和やかな雰囲気助けられて、新鮮な経験を沢山することができたことに感謝いたします。

平成26年3月31日に定年退職される先生方に 在職中の思い出を語っていただきました。

Memories of Komazawa University グローバル・メディア・スタディーズ学部教授 クボタ, ラリー



Among my fondest memories of Komazawa University is the Shibuya Dreamscape project, as it represented a step towards what universities of the 21st Century can do. The world has turned upside down and students need to take charge of their own learning, as they are the leaders and often teachers of new emerging technologies. This project enabled faculty and students from diverse disciplines to work together in teams turning their dreams into an Internet platform project. There

was a rare excitement surrounding this effort, with deep and genuine learning that happens only when students are engaged in something that they are interested in and that has meaning for them. As they worked on the project solving problems, they used imaginative thinking, and then discussed their ideas in a team, which then prepared them for a global life of work after Komazawa. This was an invigorating time for me in Japan as I grew and learned within an ancient university setting.

36年あれこれ

総合教育研究部教授 久保 陽一



私は本学にお世話になって36年になる。36年といえば、実にこれまでの人生の半分以上である。入った当初、先輩の先生から「退屈するぞ」と言われた。最初の頃は緊張することが多く、退屈するどころではなかったが、いつの間にか鈍感になり、時の過ぎるのが早くなった気がする。色々な

ことがあったが、とくに有難かったのは在外研究の機会をいただいたことで、お蔭で研究の足掛かりと友人をえることができた。だが本学の学生に興味を持ってもらえる授業ができたかどうか、甚だ心もとない。ただ、熱心に質問してくる学生もおり、彼らと言葉を交わしたことが楽しかった。

長くて短かった駒澤での半世紀

総合教育研究部教授 石原 孝哉



駒澤大学に入学したのは、安保の余燼よじんがまだくすぶる昭和37年、在学中にオリンピックを間近に見る幸運に恵まれた。その後、北海道教養部で3年勤務し、本校で教えるようになってからさらに40年が過ぎた。この年月は旃檀林から400年以上の歴史を持つ駒澤からみればほんの一時

にすぎないが、この間に駒澤は近代的な総合大学へと劇的な変身を遂げた。また、世の中は入試地獄といわれた時代から、大学全入時代などと揶揄される時代に入った。駒澤が、これらの荒波を乗り越えてさらに発展することを願ってやまない。

駒澤の思い出

総合教育研究部教授 梅原 敏弘



駒澤で勤め始めて早35年。最初の20数年は短大英文科で、その後は総合教育研究部で教えました。以前女子学生は短大で2年勉強し、就職していくケースが多く、優秀な学生もいました。毛並みの変わったところで、スポーツ推薦で入ってきた英語が全く駄目なテニス部の学生がいました。玉川

校舎までお説教に行ったところ、勉強態度を改め、やっと卒業しました。その後海外に行き、帰国後私の研究室を挨拶に訪れた際、同伴のフランス人のフィアンセとブロークンながら英語を流暢に喋っているのを見て驚きました。あの学生がと。人は変わるものです。

一期一会

総合教育研究部教授 高野 秀夫



私が駒澤大学北海道教養部の講師として赴任した当時は、大学は第一次ベビーブームで教場は溢れんばかりの学生でした。しんしんと降る雪を見ながら研究室で専門書を読んだことが懐かしく思い出されます。北海道教養部在職中、ロンドン大学に留学しバーバラ・ハーディ教授に出会い、研

究方向が決まりました。英国では日本文化の根幹に深く関わっている建学精神のおかげで温かい歓迎を受け、本学の海外での高い評価を知りました。日本の未来を築く学生たち、優秀な同僚の先生、職員の方々に出会えて幸運でした。今後の母校の発展を心からお祈り申し上げます。

自分の頭で考えろ！

総合教育研究部教授 杉山 秀子



思い出一筆は、過去のことより今後の諸君のことが心配なのであえて直言します。

今日本は正常な状態ではないのですよ。安倍総理はオリンピックを誘致するために汚染水は、アンダー・コントロールと虚言を吐き、政府は福島の子どもを県内に閉じ込め、甲状腺癌の検査すらろくにさ

せず、余り効果のない除染を督促し、瓦礫は全国にばら撒き放題、地域や水源の汚染を促進させるような愚挙を弄してきました。今後私たちはこれまでの同調社会の中で”ぬくぬく”暮らすことは不可能。これからは自分の頭で是非を判断し、行動することが必要になってきたことを諸君は肝に銘じて欲しい。

天桂伝尊の住した寺院を訪ねて

仏教学部准教授 松田 陽志



この数年来、江戸時代の曹洞宗の僧、天桂伝尊（1648～1735）の住職地を訪れている。江戸時代は曹洞宗の宗旨の独自性や教団の一体性をめぐり、さまざまな論争が展開するが、天桂は道元禅師の『正法眼蔵』全体に対する註解である『正法眼蔵弁註』等により、独自の宗旨理解から多くの問題を提起した。

各地の住職した寺院を訪ねると、あらためて天桂という人の存在の大きさを実感させられる。和歌山出身の天桂が出家した窓誉寺（和歌山市）のご住職は近隣の、天桂の弟子達が歴代住職となっている寺院のご住職と共に、その関わりを強く意識している。天桂がはじめて住職となった駿河の静居寺（鳥田市）には、強い眼光によって見る者を緊張させる木像や肖像（頂相）が所蔵されている。ご住職は天桂が建立した輪蔵（経蔵）の石礎に天桂の名が刻されていることを教えてくれた。阿波の丈六寺（徳島市）は、弟子達が天桂の著作を書写して学んだ跡形を示す貴重な資料を所蔵している。住職の奥様からは、先住が手許に置いていた寺史を、読んでほしいと託された。

終焉の地となった摂津の陽松庵（池田市）は、「肉暖」の額を掲げ、天桂の筆痕を生々しく残す多くの文献等を、在すが如くに所蔵している。開山堂の厳しい顔の木像の横には天桂が愛した猫の置物が置かれている。墓所は遺言により石塔ではなく一本の楠が植えられ、歴代の住職によって守られてきた。

貴重な文献を拝見すること以上に、天桂の法を承けていることを意識する人々に出会うことは、何より得がたき経験である。

さらに進化する磁気共鳴画像法

医療健康科学部教授 吉川 宏起



駒澤大学に赴任して11年目に突入しています。放射線科医となつてから早や36年目です。放射線科は治療、診断、核医学の3部門から構成されていますが、私の専門は診断部門で、主たる仕事は頭のとっぺんから足のつま先に至る画像を観察して診断書なるものを作成することです。

研究は磁気共鳴画像法（MRI）で用いられる造影剤分野で行っています。MRIとは磁石とラジオ波で体内の水素原子核を画像化する装置で、侵襲少なく任意の方向の高コントラスト断層像が得られるのを大きな特徴としています。当大学にも0.2テスラ（2000ガウス）の永久磁石型MRI装置が7号館に設置されています。MRI用造影剤は常磁性であるガドリニウム（Gd）イオンやマンガン（Mn）イオン、鉄（Fe）イオンや微小鉄粒子など磁場の中で体内水素に強い影響を及ぼすものを主成分としています。これらの造影剤はX線検査で用いられる水溶性ヨード剤や硫酸バリウム剤などと比較すると微量で強い造影効果が得られることを特徴としています。研究では種々の造影剤の体内分布を正確にシミュレーションできるファントム作成やラットなどの生体を用いて実際の薬剤分布の画像解析を主に行っています。

1970年代に開発が開始されたMRIの進歩は今なお目覚しく、体内の血流や灌流、拡散、磁化率、弾性率など次々と新しい体内のパラメータが画像化されています。今後、これらの高精度画像解析研究の推進を通じてMRIの有効な医学応用に微力を尽くせればと考えています。

駒沢キャンパス

本部棟の耐震工事が完了

本学は、東日本大震災を契機に、学内建物の耐震化・安全対策を喫緊の課題とし、取り組んできました。

1号館耐震改修工事は、震災以前から計画しており、予定通り平成23年度に実施しました。その後、学生の利用する施設を優先的に耐震化することとし、平成23年度に6号館・第1研究館、平成24年度に学生会館・図書館の耐震補強工事を行いました。平成25年度には本部棟の耐震改修工事を実施し、平成26年1月に工事が完了します。本部

棟はその構造から、建物を使用しながらの耐震化が難しく、事務室等を学内各所に仮移転せざるを得ませんでした。また、キャンパス中心部の工事であり、駐輪場の移設・学内通路の迂回をお願いするなど、工事期間中は、学生・教職員の皆さまにご不便をおかけしました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

今後も、学内施設の安全対策・バリアフリー化を重要課題として施設整備に取り組んで参ります。

（管財部）



キャリアセンターからのお知らせ

2016年3月卒業生（現2年生）から就職活動の始まる時期が変わります。就職情報サイトのグランドオープンが、3年生の12月1日から3月1日に「後ろ倒し」になります。

キャリアセンターでは、3年生の4月初旬（授業開始前）から就職ガイダンスを実施し、就職活動の概要を説明します。各種セミナーなど支援行事も盛り沢山です。

※就職活動では、早くから意識を持って準備をする学生の多くが、良い結果に至っています。

「しごと研究講座」開催直前のガイダンスでは、就活ノートとして役立つCareerHandBookを配布します。

黒いカバーに大学シンボルマークの型押しだけの冊子は就活を連想させず、手頃なサイズ（A5判）のダイアリーとしても好評です。是非活用してください。

Career
HandBook



イベント情報

■4年生・修士2年生対象

『学内選考会』※事前申込制

今年4月入社に向けた3日間の内定獲得プログラムです。参加希望者は「事前ガイダンス」にお申し込みください。

事前ガイダンス（申込制）：

1/29(水) 13:00～16:10 教場：1-304

STEP1：事前研修 2/12(水) 10:00～18:00

STEP2：企業紹介 2/13(木) 10:00～18:00

STEP3：学内選考会(本番) 2/18(火) 10:00～18:30

■3年生・修士1年生対象

『第2回合同企業説明会』

4日間で400社が来校します。

1/28(火)～31(金) 時間：10:00～16:30

場所：駒沢キャンパス体育館

※午前と午後で企業が変わります。

就職活動体験記 ～これから就職活動に挑む皆さんへのアドバイス～

新たな自分を見つけた就活

経済学部経済学科4年
齊藤 健伍



私は小学生の頃からパイロットになることが夢でした。その思いは高校、大学へ進学しても変わりませんでした。昨年、航空会社の自社養成パイロットコースを受けましたが、あと少しの所で夢は叶いませんでした。ようやく掴みかけていた夢が、一瞬にして手元から離れてしまった現実を受け入れるには、時間が掛かりました。

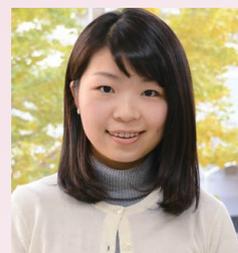
その後もう1度、人生の中でやりがいを感じた瞬間を振り返った時、1年間のアメリカ留学の際に行ったレンタカー会社でのインターンを思い出しました。自らが中心となって車を状態別に整理し、それをパソコンで管理する事で業務の効率化を図り、売上げを伸ばしたのです。パイロットになることしか考えていなかった私が、その夢が絶たれたことで、業務の効率化や経営課題の解決に興味をもっていきなり気が付いたのです。その中でも様々な業界に広く携われるのはITだと考え、日本アイ・ビー・エムを志望しました。

就活はただ内定を得ることが目標ではありません。自分が将来どのようになりたいか明確なビジョンをもち、それを実現できる業界、企業を選んで欲しいと思います。

(内定先：日本アイ・ビー・エム (株))

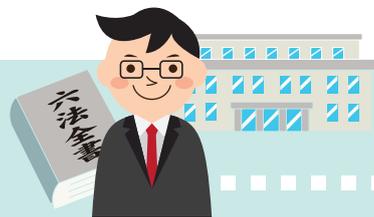
私の就活必需品

法学部政治学科4年
宇川 明花



- ① 就活で一番役に立ったのは、学生時代、全力で打ち込んだ様々な事柄です。私は、サークル、ゼミ、アルバイト、趣味、いずれも「いくらでも語れるぞ」というくらい、全力投球で臨みました。面接官の方から質問攻めにあっても、自分のエピソードに対する思い入れに自信があったので、余裕を持って答えられました。「好きなことについて3分間プレゼンしてみてください!」と言われたこともあります。そんな時でも、夢中になっていることがあれば生き生きとした普段の自分をアピールできるはずですよ。
- ② 就活中、いつも持ち歩いてきた物が、自分で作った「先輩社員ノート」です。私は就職志望先を金融大手約20社に絞り、企業毎にノートを用意し、先輩社員にお会いする度に、その考え方や仕事に対する姿勢等を詳細に書き込みました。それを見直しインプットすることで、先輩たちに一歩でも近づこう、真似しようと努力しました。就活では社会人として活躍できるかがみられます。様々な工夫と実践が最終的に結果を導き出すと思います。

(内定先：(株)三井住友銀行)



10月26日、法科大学院では、同法曹会の協力を得て、駒澤法律事務所開設を記念し、無料法律相談（計15件）を開きました。担当弁護士からは「当方からのアドバイスで問題が解決したり、ご安心いただけただという案件もあった。法科大学院OBとしては、このような無料法律相談が院生時代にお世話になった世田谷・駒沢地域の方々へ恩返しとなれば、これ以上の喜びはない。今後もこのような形で地域の方々に関わっていくことができればと思う。」との感想が寄せられました。また、11月2日、第一東京弁護士会の公設事務所である渋谷シビック法律事務所の協力を得て定例の無料法律相談を開き、相続・離婚など15件の法律相談を受けました。法科大学院の学生も相談に同席して実際法律相談を体験します。今回も5人の学生が同席し、法律相談の終了後に相談を担当した弁護士が各相談について講評をし、学生からの質問に答えました。

12月21日、第3回市民ロースクール「インターネット時



代のリスク回避術」(江森史麻子准教授)を開きました。インターネットが普及し個人が手軽に情報発信や情報収集ができるようになった反面で問題となっている、著作権や個人の名誉・プライバシーなどの侵害について、法的問題点を整理し、これらのトラブルを起こしたりトラブルに巻き込まれたりしないためにどうすれば良いか、不幸にも巻き込まれた場合にはどうすれば良いかを考えました。

(法科大学院教授 青野 博之)

仏教行事について

高祖降誕会

仏教学部教授 岩永 正晴

1月26日は高祖降誕会、道元禪師のお誕生日です。伝記は正治2(1200)年正月2日に京都でお生まれになったと伝えていますが、曹洞宗教団は、明治6年に我が国で採用された太陽暦に換算し、この日を降誕会としたようです。

江戸時代に活躍した損翁宗益(1649～1705)という方は、インドの釈迦牟尼仏に源を発し、菩提達磨和尚によって中国に伝えられた仏法を我が国において学び得るのは、道元禪師のお陰である、道元禪師こそお二人の真の尊さを知る方だと平素から語って重んじてやまず、また多くの弟子を育てました。

現代は、万事において変化を尊び、変化にすばやく適応するために古いものを切り捨て、その時々スタイルを習得しつづけることが要求されます。やや息苦しさを覚える現代であればこそ、仏法を歪みなく伝えてきた先人の恩を知り、学び得た仏法を後世に伝えることで恩に報いようとした損翁和尚の姿が慕わしくなりません。



本学でも中央講堂において降誕会の法要を営み、道元禪師のご生誕をことほぎ感謝の信を捧げます。どなたでも参列できますので、どうぞ奮ってご参加ください。

涅槃会

仏教学部教授 池田 練太郎

仏教の開祖釈尊は、遊行の途上、クシナーラーの地で80年の生涯を終えられた。中国・日本などでは、その日を2月15日であったと伝えている。入滅の日に営まれる涅槃会は、勝れた教えを残されたブツダの遺徳を偲び、報恩の気持を表すための法要である。

〈涅槃〉の語は、一般に煩惱の火が吹き消された状態を意味する。釈尊は6年に及ぶ苦行を経て悟りを開き、一切の煩惱を断じて迷いの生存を超越したといわれる。〈涅槃〉を達成されたのである。しかし、人は肉体がある限り食事や睡眠などの欲求から逃れることはできない。それは釈尊といえども例外ではない。そこで仏教徒たちは、釈尊の死をそうした束縛からも解放された〈完全なる涅槃〉(般涅槃)と考えるようになった。しかし、理想の境地は死によって得られるものではなく、釈尊自身も自らの意思による死を強くいさめている。涅槃会は、生身の人間にとって身心の安らぐ静寂な境地に至ることがいかに困難であるか、そのことをも教えてくれているようである。涅槃に入ることによって釈尊は、尊敬を受ける修行者から信仰の対象としてのブツダへと昇華されたのである。



安らぐ静寂な境地に至ることがいかに困難であるか、そのことをも教えてくれているようである。涅槃に入ることによって釈尊は、尊敬を受ける修行者から信仰の対象としてのブツダへと昇華されたのである。

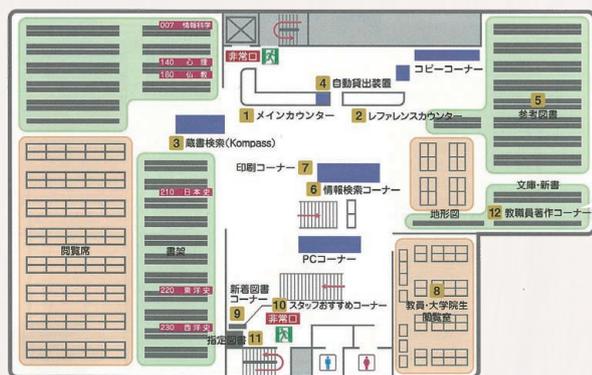
新刊紹介

2013（平成25）年に刊行された本学教職員の著作物（共著、編著、解説、監修含む）一覧です。これらは、図書館2階の「教職員著作物」コーナーなどですべて閲覧することができます。

是非、一度手にとってご覧ください。

※2013年11月14日までに図書館に配架された書籍を掲載しています。

No.	書名・出版社等	著者
1	大戦間期の対中国文化外交：外務省記録にみる政策決定過程 / 熊本史雄著。-- 吉川弘文館, 2013.2.	熊本史雄
2	道元と曹洞宗がわかる本 / 大法輪閣編集部編。-- 大法輪閣, 2013.1.	佐藤秀孝, 角田泰隆
3	石頭：自己完結を拒否しつづけた禅者 / 石井修道著。-- 臨川書店, 2013.1. -- (唐代の禅僧；3).	石井修道
4	『平家物語』本文考 / 櫻井陽子著。-- 汲古書院, 2013.2.	櫻井陽子
5	中国渭河流域の西周遺跡 / 飯島武次編。-- [1], 2. -- 同成社, 2009.3. - 2013.3.	飯島武次
6	土器から見た古墳時代の日韓交流 / 酒井清治著。-- 同成社, 2013.3.	酒井清治
7	悪王リチャード三世の素顔 / 石原孝哉著。-- 丸善プラネット.	石原孝哉
8	EU経済の進展と企業・経営 = Development of the EU economy, business and management / 久保広正, 海道ノブチカ編著。-- 勁草書房, 2013.2. -- (シリーズ激動期のEU；2).	松田健
9	法学と憲法学への誘い / 松村格編。-- 八千代出版, 2013.4.	松村格
10	仏教思想論 / 松本史朗著。-- 上, 下。-- 大蔵出版, 2004.4-2013.5.	松本史朗
11	経営学を学ぼう / 百田義治編著。-- 中央経済社, 2013.4.	百田義治
12	不穏でユーモラスなアイコンたち：大城立裕の文学と〈沖繩〉 / 武山梅乗著。-- 晶文社, 2013.3.	武山梅乗
13	てらゆきめぐれ：大橋一章博士古稀記念美術史論集 / 大橋一章博士古稀記念会編。-- 中央公論美術出版, 2013.4.	村松哲文
14	千年の百冊：あらすじと現代語訳でよむ日本の古典100冊スーパーガイド / 鈴木健一編。-- 小学館, 2013.4.	中嶋真也
15	地域の再生と流通・まちづくり / 佐々木保幸, 番場博之編著。-- 白桃書房, 2013.5. -- (日本流通学会設立25周年記念出版プロジェクト / 日本流通学会監修；1).	番場博之
16	二重性のダイナミクス：組織変革の構造 / 渡辺伊津子著。-- 白桃書房, 2013.7.	渡辺伊津子
17	豊かさという幻想：「消費社会」批判 / 姉齒曉著。-- 桜井書店, 2013.6.	姉齒曉
18	基礎から学ぶ国際関係論 / 三船恵美著。-- 泉文堂, 2013.6.	三船恵美
19	足尾銅山・朝鮮人強制連行と戦後処理 / 古庄正著。-- 創史社.	古庄正
20	エントロピーの起源としての力学的熱理論：クラウジウス熱理論論文集 / ルドルフ・クラウジウス著；八木江里 [ほか] 訳。-- 東海大学出版会, 2013.9.	依田聖
21	心理咨询と心理督导 / 高橋浩子 [ほか] 編著；李同归审校。-- 中国原子能出版社, 2013.8.	高橋良博
22	姓と性：近代文学における名前とジェンダー / 高田知波著。-- 翰林書房, 2013.9.	高田知波
23	ツタンカーメン：「悲劇の少年王」の知られざる実像 / 大城道則著。-- 中央公論新社, 2013.9. -- (中公新書；2235).	大城道則



図書館2階閲覧コーナー Map



仏教学部 藤井淳講師の活動が「やまがた公益大賞」を受賞

仏教学部の藤井淳講師が山形県で活動している団体「特定非営利活動法人子ども支援フェイスブックプロジェクト」が、「やまがた公益大賞」を受賞しました。これは福島県などからの避難世帯の小・中学生を対象に学習支援を行ったり、保護者同士の交流会や臨床心理士による相談会などを実施する「週末寺子屋～子ども大学～」の活動が評価されての顕彰です。同学部の石井清純教授も協力者として児童・学生の見守りを行っています。

公式Facebook :

<https://www.facebook.com/terakoya.kodomodaigaku>

(広報課)



左から3人目が藤井淳講師

経済学部 長山宗広教授が日本経営学会賞受賞

経済学部の長山宗広教授が、9月4日(水)～7日(土)の日程で関西学院大学商学部(西宮上ヶ原キャンパス)にて行われた日本経営学会第87回大会において、日本経営学会賞(著書部門)を受賞しました。

受賞作は、『日本のスピノフ・ベンチャー創出論-新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究-』(同友館)です。

長山教授のますますの活躍が期待されます。

(広報課)



長山宗広教授

グローバル・メディア・スタディーズ学部生が学生スマートフォンアプリコンテストでアイデア受賞

情報処理学会コンシューマ・デバイス&システム研究会・モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会主催の学生スマートフォンアプリコンテスト(9月12日開催)において、GMS学部の学生チームが作成したアプリが「アイデア賞」を受賞しました。チームは3年生有志で構成されており、双方向的な教育活動・生涯健康の推進活動を目的としたスマートフォン・タブレット向けWebAppを制作したことが評価されました。

アプリケーション名 :

R-ZONE-ソーシャルな街ナカ探検アプリ
チーム名 : Inter↔active

(広報課)



MySeminar 私のゼミ vol.132

法学部法律学科4年
井上 静佳

法学部 原田 啓一郎 ゼミ

原田ゼミは、13人の学生が所属する社会保障法を研究するゼミです。社会保障法とは、社会保障制度を構成する社会保険(年金、医療、介護、労災、雇用保険)、社会福祉、生活保護などの法律の総称であり、私たちの生活の様々な場面でかかわりのある必要不可欠な法分野です。社会保障法は時代の最先端となる課題が多い領域であり、法学のほか、政治学、経済学、社会学など学際的な視点が必要となる学問分野です。学際的でありながらも生活の中に深く根差し



ている学問であり、普段から問題意識を持ち、主体的に問題の検討に取り組めるところに社会保障法を学ぶ面白さがあります。

ゼミでは、主体的に取り組む姿勢が重視され、論理的かつ客観的視点が求められます。今年度は、医療・介護・福祉一体型の仕組みとして現在注目されている「地域包括ケアシステム」の現状と法制度の課題を発表し、ゼミ生の間で問題意識を共有しました。また、実際に様々な問題を抱えている地域や行政機関を訪問し、五感で現場を感じることで、法律の条文を眺めているだけではみえてこない新たな視点も得られました。こうした活動を通じて、ゼミ生が各自の関心に応じた論点を提示し研究を深めていきます。研究作業では行き詰まることも多いのですが、原田先生はすぐに答えを示すのではなく、ゼミ生自身で探究するためのヒントを与えてくださいます。

通常のゼミの活動のほか、夏・冬のゼミ合宿や定例コンパなどを通じて、社会保障制度の問題に真剣に向き合いながらも和気あいあいとした雰囲気のゼミとなっています。

国際交流協定校 キーンズランド大学来日プログラムが25周年！



オーストラリア・キーンズランド大学来日プログラム(KOMSTUDY)は、この度25周年を迎え、昨年11月26日に「キーンズランド大学来日プログラム25周年記念パーティー」を開催いたしました。ホストファミリーをはじめ、100人以上の関係者のご臨席を賜り、盛会裏に終えることができました。

本プログラムは日本語・日本文化研修プログラムとして、本学協定校のキーンズランド大学の留学生が、さまざまな体験を通して異文化理解を深める目的で1989(平成元)年にスタートしました。以来25年間にわたり、このプログラムへ参加した学生数は456人となりました。本プログラムへの参加後、本学へ交換留学生としてこれまでに15人の学生が来日しており、本学以外の日本の大学、大学院へ留学した学生を数えると、更に多くの学生が再来日していることとなります。また、本学の学生で在学中に交換留学生としてキーンズランド大学に留学し、卒業後に来日プログラムのホストファミリーとしてご協力くださる人もいます。あらためて様々な方のご協力があって、この25周年という節目を迎えることができましたことに、心より感謝申し上げます。

本プログラムは、キーンズランド大学生、本学学生、本学近隣の方々、の三者が一体となることによって、大学



間、ひいては両国間の国際交流の発展に寄与することも目的のひとつです。留学生にとっては、日本語をはじめ、宗教、芸術、武道など多岐にわたる日本文化の講義や実習、またホームステイ体験を通じて、日本人の生活と文化への理解を深める絶好の機会となっており、まさに、本学の建学の理念である「行学一如」を体感する機会であるといえるでしょう。

両大学の学生が人間対人間として、心の交流、真の意味での直接的な国際交流を体験する場を四半世紀にわたって継続的に提供できたことを誇りに思うと同時に、グローバル人材の育成に繋がるプログラムとして、今後も大切に運営し、継続することが期待されます。

(国際センター事務室)



オータムフェスティバル2013開催



11月2日(土)・3日(日)の2日間にわたって、駒澤大学の大学祭である「オータムフェスティバル2013～伝統と飛躍～」が開催されました。9度目を数えた2013年度は、駒澤大学駒沢移転100年という節目を記念する年となりました。今年度も数多くの来場者にお越しいただき、無事盛況のうちに終了いたしました。

毎年、恒例の模擬店や教場発表をはじめとする団体参加企画や大学祭ならではの企画を数多くご用意し、おかげさまで多くのご好評の声をいただきました。これもひとえに、学校関係者、地域住民の方々、そしてなにより熱い思いを持って取り組んでくださる駒大生の皆さんのおかげであると、実行委員一同感謝しております。厚くお礼申し上げます。今後とも大学祭という方法で、駒澤大学を盛り上げていくよう取り組んでまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(オータムフェスティバル2013代表 文学部地理学科3年 小泉 広晃)

inshibuya hikarie 第10回 Homecoming Day

同窓生を迎える「ホームカミングデー」を、11月3日(日)に開催しました。記念すべき第10回となる今年は、初めて会場を学外の渋谷ヒカリエに移し、前回は約1200人の来場者がいらっしゃいました。お笑い芸人・サンドウィッチマンさんのトークショーや、軽音楽部ジャズ研究会の歓迎演奏、応援指導部ブルーベガサスの応援が披露され、久しぶりに集った同窓生を迎えました。また、本学OBで横浜DeNAベイスターズ監督の中畑清さんも出席され、会場内は、大変賑っていました。

招待状は、限られた卒業年度の方には送られませんが、同窓生ならどなたでも参加できます。在学生の皆さんも、卒業した後は是非このホームカミングデーにお越しください。



(広報課)

■ 教務部よりお知らせ

◎平成25年度 後期・通年科目定期試験日程について

定期試験 (集中試験)	1月14日(火)・15日(水)・16日(木)
定期試験	1月20日(月)～24日(金)・27日(月)

▶2014年1月

定期試験 (集中試験)		定期試験		大学入試センター 試験等のため入構不可		
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7 補講	8 補講	9 通常授業	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25 ^①
26 ^①	27 ^②	28	29	30	31	

① 1月25日・26日は、大学入試センター試験の再試験が本学で行われる場合入構できません
② 1月27日は、土曜日振替試験日です

定期試験はすべて駒沢キャンパスで実施します。

詳細は、学内掲示・大学ホームページ・KONECO等で確認してください。

◎1月14日・15日・16日は、専門教育科目の集中試験です。

専門教育科目集中試験とは、履修者数が多いなどの理由で
授業曜日・時限と異なる日時で実施する試験です。

学生証を忘れずに

平成26(2014)年度よりカリキュラムとKONECO(履修登録制度)が変わります ～事前オリエンテーション開催のお知らせ～

平成25(2013)年3月配付の「学園通信」(臨時号)でお知らせしましたカリキュラムの変更について、3月27日(木)・28日(金)に履修登録前のオリエンテーションを開催します。

平成26年度はKONECOによる履修登録の方法・カリキュラムが同時に変更となりますので、オリエンテーションでは履修登録の方法を併せて説明します。教務部臨時窓口で履修要項を受領の上、参加してください。

履修要項・学生証裏面貼付シール配付日時・場所
3月27日(木)・28日(金) 9:00～17:00 教務部臨時窓口
説明会の開催場所等の詳細はKONECOでご案内します。

駒澤大学学術褒賞について

曹洞宗の教学及び駒澤大学の学術の振興をはかることを目的に、曹洞宗特別奨励賞及び駒澤大学学術文化賞を設け、各々の専門分野において学術上顕著な業績を発表した方に対して褒賞を行いました。受賞者には、12月6日に行われた成道会法要の際に、賞状と賞金が授与されました。

曹洞宗特別奨励賞

【仏教学・禅学・宗学部門】

駒澤大学仏教学部教授 松本史朗 氏

業績名：『仏教思想論 下』

受賞理由：如来蔵思想及び唯識思想に関して精緻な解明を行い、これまでの仏教学界の常識が特定の学派訳者の手による漢訳仏典に基づく点が大きかったことを明らかにした。この問題提起は非常に有意義であり、仏教学界に対して大きく貢献している。

曹洞宗特別奨励賞

【教化学部門】

愛知学院大学教養部教授 川口高風 氏

業績名：『熱田 白鳥山法持寺史』

受賞理由：本業績はきわめて学術的色彩の強い寺史であり、長年にわたる史料収集と内容整理を通してなされた本成果は、川口教授の力量なくして到底なし得なかった。

駒澤大学学術文化賞

駒澤大学文学部准教授 大城道則 氏

業績名：『古代エジプト文明 世界史の源流』

受賞理由：「世界史の中の古代エジプト」という著者独自の観点に基づき、古代エジプト史を縦軸に据え、エジプトとその周辺世界との相互関係や古代エジプト文明の世界の中の役割について言及した点などにオリジナリティーがあり、高く評価できる。

北タイゼミ

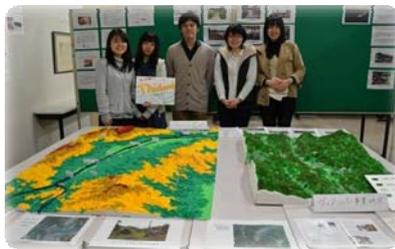


北タイゼミについて

北タイゼミは地理学科の指導教員3人のもとで、タイに関する地理的な事柄を学んでいます。週1回の活動に加えて、8月と12月に約1週間の現地活動やオータムフェスティバルへの出展、そして年度末に調査報告書を作成しています。現在院生2人、4年1人、3年8人、2年1人の計12人で活動しています。

オータムフェスティバル

オータムフェスティバルでは、活動地域の立体模型や活動状況、タイに関する情報を展示したり、北タイの村人達のハンディクラフトをフェアトレードで販売してきました。



現地活動（環境教育への協力）

年2回行われる現地活動では NGO・Link との協力で、現地の中学生と一緒に河川の水質調査とワークショップを行い、山間部に暮らす民族の家にホームステイをして、中学生や村の人々と交流します。これまでの活動では、日本とタイの民族衣装を披露し合ったり、現地の子どもたちに日本食を振る舞ったり、様々な交流もしてきました。ほかにも山登りや川下りをしながらの自然観察、寺院やマーケットでの文化体験もします。



詳しくはウェブで！ <http://www.komazawa-u.ac.jp/gakunaisoshiki/kenkyujo/iag/project/thai/index.htm>

サークルの活動報告

囲碁部

リーグ戦2部優勝 1部昇格



今年度の囲碁部は強い先輩方が卒業してしまったということもあり、決して強いチームとはいえませんでした。チーム力でカバーして春の団体戦は8校中4位。あと1勝で1部リーグに復帰できるところまでできたという予想外の好成績で、秋の2部優勝への手応えを掴むことができました。そして、秋のリーグ戦2部優勝。その要因となったのは、やる気のある部員の存在によって囲碁部全体の士気が上がったことが大きいと思います。

3部降格も覚悟していた今年度でしたが、みんなの頑張りです手にした2部優勝、そして悲願の1部昇格。これはレギュラーだけでなく、囲碁部員全員で勝ち取った結果だと思っています。一選手としてこの結果に携わることができたことを誇りに思います。

(経済学部経済学科2年 小金舜)

剣道部

関東女子学生剣道優勝大会準優勝

第39回関東女子学生剣道優勝大会が9月21日に東京武道館にて行われ、剣道部史上初の準優勝を飾りました。選手はそれぞれ課題を持って一試合一試合を全力で、全員がチームワークを大事に、お互いを信じて試合に臨みました。準決勝の国士館大学との試合は先鋒の一本を全員で大事に繋いでいき、チームワークの良さが特に光る試合でした。決勝の法政大学との試合は1対0と僅差での敗北となり悔しい思いをしましたが、決勝の舞台上素晴らしい試合を繰り広げました。11月に行われた全日本大会においてはベスト16という昨年度と同様の結果に終わりましたが、今後も大会に向け部員全員一致団結し、稽古に精進していこうと思います。

(経済学部経済学科3年 井上愛理)



自動車部

全日本学生ジムカーナ選手権大会 団体準優勝

私たち自動車部は、昨年8月25日に三重県の鈴鹿サーキットで行われた「全日本学生ジムカーナ選手権大会」で見事、団体準優勝を飾ることができました。選

手はもちろんのこと、サポートメンバー、チーム一丸となり団結した結果だと思



ます。決勝当日は朝から雨が降り各大学とも不安な雰囲気でした。他の大学が苦戦している中、わがチームは好タイムを次々とたたき出し、見事準優勝することができたのです。個人では、4年の角谷選手が4位、3年の安部選手が5位に入賞しました。これからも昨年の結果を超えることができるように、チーム全員で高めあい、切磋琢磨しながら活動していきます。応援よろしくお願いたします。

(文学部社会学科2年 内貴太一)

空手道部

関東学生空手道大会 女子団体組手の部優勝

11月14日に行われた関東学生空手道大会、女子団体組手の部において本学空手道部は優勝することができました。今年度は前期の大会で思うような結果を出せなかったため、この大会で優勝すること



サークル訪問 139回

教職研究会



かつてお世話になった先生の言葉が、今の歩みに繋がっているという方も多いのではないのでしょうか。今回は教師を目指して日々切磋琢磨する学生が集う「教職研究会」を紹介します。

研究会は40年にわたる長い歴史を持ち、実際に教職に就いた方は1,000人以上にも上ります。

主な活動内容は教員採用試験対策から実践的なものまで様々です。週1回のゼミ形式で行われる講義では、教員採用試験対策に加えて、卒業生で、実際に教職に就かれた方との交流もあります。学生による勉強会では、試験で課される集団討論の対策、黒板に字を書く練習、各々が自由な内容を扱う模擬授業を行います。「なぜいじめは起こるのか」といった議題で討論するうちに思わず熱くなることもあれば、慣れない黒板に四苦八苦することも。教師になるためだけでなく、その後の教員生活も見据えた本格的な活動内容です。

毎年春に行われる合宿では、OB・OGの方を招いて模擬面接を行います。現役の教師から教育委員会で活躍している方まで幅広い面々が集うそうです。活動は学内だけに留まりません。3年生になると、小中学校のティーチングアシスタントとして生の現場を踏むようになります。「勉強してきたことを現場で試して改善されることもある。現場での経験は大きい」と代表の西山さん。西山さんも学校の楽しさ、勉強の楽しさを子どもたちに伝えたい、と教師を志す一人です。

熱い志を持った教師の卵たちが集まる教職研究会。興味のある方はぜひ一度のぞいてみてはいかがでしょうか。

(学生記者 駒大スポーツ所属 文学部英米文学科2年 高橋春子)



ができ、大変嬉しく思いました。普段から練習でやっていることを本番で出すことができれば、技術面でも他大学には劣らない力を持っていると自負しています。これからも一日一日の練習に真剣に取り組み、この結果に満足せず、全日本学生優勝を目指して部員全員で切磋琢磨していきたいと思ひます。

(文学部歴史学科4年 保岡笑)

ボクシング部

国体・全日本選手権で好成績

今年度も、「国体・全日本選手権優勝」を目標に掲げ、がんばってきましたが、しかし国体は優勝したものの全日本は3位という結果となりました。小山田監督からは「昨年度のリベンジをして優勝するぞ。『ライトフライ級』での最後の大会だと思って頑張ろう」と激励されました。



監督は私とともに減量し、時にはサウナにも付き合ってくれ、たくさんサポートしてくださいました。優勝はできませんでしたが今回が一番真剣に取り組めたため、悔いはなく、とても感謝しています。しかし、やはり3位は悔しいため、この気持ちを優勝するための糧として、毎日の練習に取り組んでいきたいと思っています。

監督は私とともに減量し、時にはサウナにも付き合ってくれ、たくさんサポートしてくださいました。優勝はできませんでしたが今回が一番真剣に取り組めたため、悔いはなく、とても感謝しています。しかし、やはり3位は悔しいため、この気持ちを優勝するための糧として、毎日の練習に取り組んでいきたいと思っています。

(経済学部商学科2年 田中亮明)

一般スキー部

創部50周年記念式典を開催

去る10月6日に深沢キャンパスにて一般スキー部創部50周年記念式典が開催されました。これもひとえに、OBの皆さま、部長の藤原先生、そして私たちを支えてくださる全ての方々のご尽力あってのものであり、現役部員一同深く感謝しております。一時は全国優勝をした時期もありましたが、時代の流れや、金銭面、シーズンスポーツであることなどの運営面においても、今まで少なくない苦勞がありました。



ですが、部としての盛衰を繰り返しながらも半世紀も部が続いている、その歴史にとっても感動しております。諸先輩方が築き上げてくださったこの部をさらに盛り上げていけるよう、より一層の努力をしていく所存です。

(法学部法律学科4年 市之瀬有貴)

サッカー部

関東大学2部リーグ2位 1部昇格

私たち体育会サッカー部は、関東大学2部リーグを2位で終え、2年ぶりに1部に昇格することができました。今年度は「1部昇格・駒大復活」をチーム目標に掲げ、活動してきました。私が1番印象に残っている試合は、優勝を賭けた最終節の東京国際大学戦です。勝ち点で並び、駒澤大学は得失点差で負けていたので、優勝す

るためには勝つしかないという状況の中で、スタッフ、応援団、選手のまとまりを感じることができました。結果は引き分けて終わってしまいましたが、見ている人全員が感動するような試合だったと思います。

後輩たちには、卒業する私たちのためにも1部の舞台上で頑張してほしいと思います。これからも体育会サッカー部の応援をよろしく願ひいたします。

(法学部政治学科4年 碓井鉄平)



サッカー部 山本大貴選手が、ベガルタ仙台へ



本学サッカー部の山本大貴(法律4)選手が、Jリーグ1部(J1)所属・ベガルタ仙台に2014シーズンから新加入することが内定しました。ベガルタ仙台は、本学出身のフォワード(FW)赤嶺真吾選手、ゴールキーパー桜井繁選手も所属する強豪チームです。

山本選手は、熊本県宇土市出身。ルーテル学院高校から本学に進学し、1年生からFWのレギュラーとなり、2010年の総理大臣杯 全日本大学サッカー大会優勝や2013年

の関東大学リーグ戦2部リーグ準優勝(1部昇格)などに大きく貢献しました。また、2010年に全日本大学選抜、2011年、2012年には関東大学選抜に選ばれ活躍しました。

山本選手は「夢であったプロサッカー選手になれて嬉しいの一言です。お世話になった方々に自分が活躍する姿を見てもらい、恩返しができるれば。2014シーズンの目標はとにかく試合に出ること、プレーする姿を皆に見せたい。そして、FWとして得点を挙げたいです。」と抱負を語りました。また、本学での4年間で学んだこととして「人間性の面で特に成長できた」ことを一番に挙げました。

山本選手のさらなる活躍が期待されます。

(広報課)

サークルの活動予定

体育会(3団体)

●硬式テニス部

大会名: 関東学生新進テニス選手権大会
日 時: 2月中旬～3月中旬
場 所: 各大学テニスコート・有明テニスの森公園

●一般スキー部

①大会名: 第41回全国学生岩岳スキー大会

日 時: 2月下旬～3月下旬

場 所: 白馬岩岳スノーフィールド

②大会名: 第41回SIG学生基礎スキー技術研修発表会

日 時: 3月中旬

場 所: 車山高原スキー場

●卓球部

大会名: 天皇杯・皇后杯全日本選手権

日 時: 1月14日～19日

場 所: 東京体育館

大学からのお知らせは、駒澤大学ケータイサイトでも見られます。



第90回箱根駅伝総合2位 惜しくも大学駅伝三冠を逃す

2014年1月2日(木)・3日(金)、東京・大手町～箱根・芦ノ湖を往復する、10区間217.9kmのコースで行われた第90回東京箱根間往復大学駅伝競走において、本学陸上競技部は10時間57分25秒で、総合2位の成績をおさめた。

今シーズン、大学三大駅伝の出雲、伊勢のレースを優勝で飾り、『大学駅伝三冠』の期待が高まる中、臨んだ今大会。

1区は、各大学エース級の選手が名を連ねた。本学は、先の2つのレースで区間賞をとった中村選手(経済3)。トップと11秒差の2位と好スタートを切った。2区村山選手(経済3)は、6km地点手前でトップに立つと、2位以下を引き離し、26秒差をつけ、3区油布選手(経営4)へ襷を繋いだ。

3区の9km過ぎで東洋大学にトップを譲ったが、4区中谷選手(経済1)は、区間賞を獲得する走りで、5区馬場選手(商2)へ。

往路は、1位と59秒差の5時間28分12秒の2位でゴールし、復路での逆転優勝へ望みを繋いだ。

復路は、出場選手5人のうち、キャプテンの窪田選手(経済4)以外の4人が箱根駅伝初レースという布陣も注目された。6区西澤選手(商3)は、2位をキープし、7区西山選手(経済1)へ。西山選手、8区大塚選手(経営1)と1年生がしっかりと走り、キャプテンでエースの窪田選手へと2位で繋いだ。すでにトップとは3分以上の差がついていたものの、23秒追い上げ、10区其田選手(経営2)に襷を託した。其田選手は区間



6区西澤選手から7区西山選手へ

2位の好走をみせたものの、復路は5時間29分13秒、総合2位、タイムは10時間57分25秒という結果となった。

大八木監督は、「今シーズンは、育成の年であったが、悔しい。来シーズンは、三冠を狙う。その中でも箱根を重視していく。」とコメント。来シーズンのキャプテンには、中村選手が指名され1月4日から始動した。新チームの活躍と三冠達成を期待したい。

第90回東京箱根間往復大学駅伝競走記録

区間賞 上段(個人順位) タイム 下段(通算順位) タイム

総合成績(217.9km)	往路(108.0km)	第1区(21.4km)	第2区(23.2km)	第3区(21.5km)	第4区(18.5km)	第5区(23.4km)
総合2位 駒澤大学 10:57:25	往路記録 (2) 5:28:12	中村 匠吾 (2) 1:01:36 (2) 1:01:36	村山 謙太 (2) 1:08:27 (1) 2:10:03	油布 郁人 (3) 1:03:34 (2) 3:13:37	中谷 圭佑 (1) 54:41 (2) 4:08:18	馬場 翔大 (3) 1:19:54 (2) 5:28:12
	復路(109.9km)	第6区(20.8km)	第7区(21.3km)	第8区(21.5km)	第9区(23.2km)	第10区(23.1km)
復路記録 (2) 5:29:13	西澤 佳洋 (5) 59:22 (2) 6:27:34	西山 雄介 (3) 1:04:04 (2) 7:31:38	大塚 祥平 (6) 1:06:21 (2) 8:37:59	窪田 忍 (2) 1:08:56 (2) 9:46:55	其田 健也 (2) 1:10:30 (2) 10:57:25	

第25回出雲全日本大学選抜駅伝競走 15年ぶりの3度目の優勝! 大会新



10月14日(月・祝)、島根県・出雲大社～出雲ドーム(6区間44.5km)で行われた第25回出雲駅伝において、本学が2時間9分11秒の大会新記録で15年ぶり3回目の優勝を成し遂げた。

大学駅伝シーズンの到来を告げるこのレース。1区・中村が2度のスパートでトップにたち、流

れを作ると、2区・1年生の中谷は、初の大学駅伝であったが、堂々の区間2位の記録で襷をつないだ。3区・村山は、磐石の走りで区間新記録を樹立。4区・油布、5区・1年生の西山ともにトップを快走。1区から1位を守り、6区・窪田は、笑みを湛え、ガッツポーズでゴールテープを切った。

15年ぶりの優勝に、窪田選手に続き、大八木監督も宙を舞った。監督は、「この優勝が第一歩。今シーズンは、(大学三大駅伝の)三冠を狙う。」力強く語った。

第25回出雲全日本大学選抜駅伝競走記録

区間賞 上段(個人順位) タイム 区間新 下段(通算順位) タイム

総合成績(44.5km)	第1区(8.0km)	第2区(5.8km)	第3区(7.9km)	第4区(6.2km)	第5区(6.4km)	第6区(10.2km)
優勝 駒澤大学 2:09:11	中村 匠吾 (1) 23:25 (1) 23:25	中谷 圭佑 (2) 16:44 (1) 40:09	村山 謙太 (1) 22:36 (1) 1:02:45	油布 郁人 (2) 18:03 (1) 1:20:48	西山 雄介 (2) 18:31 (1) 1:39:19	窪田 忍 (1) 29:52 (1) 2:09:11

第45回全日本大学駅伝対校選手権大会 2度目の3連覇! 11度目の優勝!

11月3日(日)に行われた第45回全日本大学駅伝(愛知県・熱田神宮～三重県・伊勢神宮、8区間106.8km)において、本学陸上競技部が、5時間13分9秒の記録で、3年連続11度目の優勝(通算優勝回数最多タイ)を飾った。

10月に行われた出雲駅伝では、15年ぶりの優勝を成し遂げ、出雲・伊勢・箱根の『三冠』を目指し、意気込みも新たに大会に臨んだ今大会。1区中村が、前半からのハイスピードに乗って、

トップで2区へ襷リレー。2区、3区は2位になるものの、4区村山がトップに立ち、一気に2位と1分30秒以上の差をつけた。続く選手たちもじわじわと差を広げ、3分10秒もの大差をつけ優勝した。

アンカー窪田は、力強い走りでも独走。満面の笑みでゴールし、大八木監督、メンバーの輪に飛び込んだ。全8区間のうち5区間で区間賞と、チーム力の高さを証明したレースだった。



第45回全日本大学駅伝対校選手権大会記録

区間賞 上段(個人順位) タイム 区間新 下段(通算順位) タイム

総合成績(106.8km)	第1区(14.6km)	第2区(13.2km)	第3区(9.5km)	第4区(14.0km)	第5区(11.6km)	第6区(12.3km)	第7区(11.9km)	第8区(19.7km)
優勝 駒澤大学 5:13:09	中村 匠吾 (1) 42:38 (1) 42:38	西山 雄介 (9) 39:29 (2) 1:22:07	油布 郁人 (1) 27:07 (2) 1:49:14	村山 謙太 (1) 39:24 (1) 2:28:38	中谷 圭佑 (1) 34:18 (1) 3:02:56	馬場 翔大 (1) 36:08 (1) 3:39:04	黒川 翔矢 (2) 35:48 (1) 4:14:52	窪田 忍 (3) 58:17 (1) 5:13:09